

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年5月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年4月9日 御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「魔を打ちやぶる唱題に徹しよう」

我々の生活から四苦八苦は離れない。信仰が甘い人は、嫌なことがあると、すぐに疑いを持つ。法華経に説く「魔」とは成仏をやぶる働きである。嫌なことどころの話ではない。大聖人は、信心の甘い池上宗長に仰せになった。「千年の苜蓿(かるかや)も一時に灰となる。百年の功も一言にやぶれ候は法の理(ことわり)なり」(御書1183)と。累徳を灰のごとく瞬時に失い、積功を徒勞せしめる信仰でよいのか。さらに大聖人は「三障四魔と申す障りいできたれば、賢者はよろこび、愚者は退く」(同1184)と宗長を戒められた。仏法を知る篤信の人は難にあうを喜び、魔を唱題でやぶり、結果、法悦の人生となる。目先信心の人は信仰を捨てて、ひたすら苦の境界に帰すのである。この仏法に裏ざりはない。「苦」を「徳」に転ずる唱題に徹しよう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その33)

平成2年12月27日、宗門は「臨時宗会」を開催し、宗規の一部を改正し、総講頭・大講頭の資格を失わしめる措置をとった。すると学会組織では直ちに連日連夜、会合を開き、一方的に捏造した「経過について」や、宗門からの「お尋ね」書に回答もしないまま宗門に提出した「お伺い」書を、宗門からの回答を待たずに一般会員に配布し、でたらめな情報を流すことに徹底した。また組織を使い、総本山をはじめ全国の寺院に脅迫まがいの電話をかけさせ、翌年正月における新年勤行会を皮切りに諸法要を妨害するなど、嫌がらせ行為を開始した。1月4日からは聖教新聞や創価新報等のメディアを駆使し、宗門批判のキャンペーンを大々的に開始した。そして、僧侶を排除し、彼岸法要や葬儀を独自に行なっていったのであった。(次回 解散勧告)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(法螺吹きの本当の意味)

でたらめなことをいう人のことを「法螺吹き」という。現代では反対の意味で使われている。「法螺」の言葉の起こりは、釈尊が説法をしたとき、その話の魅力に惹かれて人々が三々五々と集まってきた様子が、ちょうど螺(ら)貝を吹いて人々を集めるときと同じである、ということから、説法の「法」と、螺貝の「螺」が結びつき「法螺」となった。「法螺貝」はもっとも大きい音のでる貝の名称して使われ、やがて「ほうら」は、魅力的な話術の優れた様を指すようになった。この「法螺」が、いつしか「ほら」と発音され、大袈裟やでたらめなことを、皮肉をこめて「大法螺を吹く」と言うようになったのである。真実の法螺(ほうら)は、仏の真実の説法である。そして、その最も崇高なるは「法華経」である。ともに仏の説法を人生の基盤としよう。